KANAGAWA ARTS PRESS
6&7 2015

神奈川芸術プレス Vol.124

CREATOR'S VOICE 143
鶴見 辰吾

CREATOR'S VOICE 143

鶴見 辰吾

KAAT神奈川芸術劇場
舞台『アドルフに告ぐ』に出演

生きるとは何か？ 問題作「ペール・ギュント」演出・白井晃インタビュー

新連載コラム　知ってた？かながわ〜「横浜スカーフ」

夏休みは親子で思い出に残る劇場・音楽ホール体験！

表紙撮影：福里幸夫

奇数月15日発行［隔月刊］

”俳優としての自我“を消すような境地で舞台に立ちたい。
観ているお客様の中で
生きていければいいなと思っています。

立ち向かうべき課題のような作品

――手塚治虫さんの同名漫画を原作とした舞台『アドルフに告ぐ』で、鶴見さんは語り部的な役割を持つキーマン、峠草平を演じられます。お話を受けた時に心惹かれたポイントはどんなところだったのでしょうか？

原作漫画を若い頃に読んでいたんですね。いわゆる少年漫画とは違う奥深さのある、歴史的事実を踏まえた、非常に読み応えのある作品として覚えていました。サスペンス調のストーリーの中で、ヨーロッパの大戦の歴史や、今現在も不穏な動きのある中東の問題などがなぜ起こってしまったのか、漫画で具体的に知ることができた。そんな印象があったんですね。その作品をどんなふうに戯曲化するんだろう!?ということにまず興味が沸きました。まだ戯曲が仕上がっていないので舞台ではどうなるかわかりませんが、漫画の中での主人公は峠草平なので、その役をやらせてもらえるのも嬉しく感じて（笑）、二つ返事で引き受けました。

――出演されるにあたり漫画を再読されたと思いますが、あらためて物語にどのような感想を持たれましたか？

少年向けのファンタジーに留まらない……というのは、ほかの手塚作品にも言えることですが、この『アドルフに告ぐ』からは、手塚さんご自身が第二次大戦で味わった心の傷の深さをあらためて感じましたね。以前、蜷川幸雄さん演出によるシェイクスピアの『タイタス＆アンドロニカス』という舞台に出演したのですが、それは復讐の連鎖といったものが物語の軸になっていて、この『アドルフに告ぐ』にも同様のものを感じました。復讐の連鎖を我々がどこで止めるのか、ということが大きなテーマになっているんじゃないかと。以前は「ドイツではこういったことがあったのか」と、歴史の事実を追いかける読み方をしていたように思いますが、今読んでみると、我々人間が立ち向かっていかなければいけない課題のようなものが描かれていると感じました。

――漫画に描かれている峠草平は数々の事件に直面する、とてもドラマチックな語り部です。人物像をどのようにとらえていますか？

1936年のベルリン・オリンピックに派遣される新聞記者として描かれていますから、大正の生まれでしょうか。現代人とはちょっと違う、気骨のある、生命力の強いキャラクターですよね。それは、空襲を受けて燃え盛る神戸の街を生き抜いてきた、手塚さん自身の体験に基づいているんじゃないかと。生きていくことへの執念が、峠草平のエネルギーの源だと思うんですね。そこをしっかりと表現できれば…と思うのですが、あんな強い人間を演じられるかどうか不安です（笑）。

――鶴見さんが峠役を演じられると伺った時、ピッタリだなとすごく納得しました。

そうですか？ そう言ってくれる方が時々いるので、ちょっと安心しています（笑）。この舞台は、前知識として「ちょっと漫画を読んでおいて」と言えるところがいいですよね。漫画なら勧めやすい。「『リア王』をやるからちょっとシェイクスピアを読んでおいて」とはなかなか言いづらいでしょう（笑）？ 実際に僕の自転車乗りの仲間で、さっそく原作漫画を買って読んでくれている人がいますよ。でももちろん、漫画を知らなくても楽しめる舞台になると思っています。

自我を消して舞台に立ちたい

――演出の栗山民也さんとは初めてのお仕事になりますね。

はい。以前に『木の上の軍隊』という舞台を拝見しています。日本の屈指の演出家だと伺っているし、実際にそうだと思いますのでとても楽しみにしています。手塚さんの『アドルフに告ぐ』であること、栗山さんが演出されること、そして横浜市民なので神奈川芸術劇場の舞台に立てること、この3つが今回、僕を奮い立たせてくれる大きな要素ですね。

――稽古に入る前に、ご自身で何か考えている課題などはありますか？

僕はいつも、一番最初に台本を読んだ時のファースト・インプレッション、直感を頼りにやっていくんですね。漫画を読んだ時の第一印象もありますけど、おそらくそれを大幅に裏切る、こんなやり方があったのか！というような台本が上がってくるんじゃないかと期待しているんです。その台本を読んで、自分の中でひらめいたものを自分なりに肉付けして構築し、いったんそれを全部消去する。そうして、お客様の目にどのようにとらえられていくのかを考えていきたいですね。今回の舞台では“俳優としての自我”のようなものを消すことができたらいいなと思っているんですよ。その境地で舞台に立ちたいと。

――それは、峠というキャラクターに埋没するということでしょうか？

そういうことなのかもしれないし、本当に基礎的なことではあるんですけど、「自分はこの役をちゃんと演じていられるだろうか」とか「評価されるだろうか」というような

俳優 鶴見辰吾

舞台「アドルフに告ぐ」

6月3日(水)～14日(日)

KAAT神奈川芸術劇場・ホール
原作:手塚治虫　演出:栗山民也
脚本:木内宏昌
出演:成河　松下洸平　高橋洋
朝海ひかる・前田亜季・大貫勇輔　谷田歩
彩吹真央・石井愃一／鶴見辰吾　他

発売中　全席指定　S9,500円　A7,000円
※U24チケット、高校生以下割引、シルバー割引あり(詳細は下記)

チケットかながわ
WEB　http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/ 【24時間】
☎0570-015-415(10:00~18:00)

詳細情報
公式WEB　http://www.adolfnitsugu.com
公式twitter @adolfunitsugu

KAAT神奈川芸術劇場 舞台『アドルフに告ぐ』に出演

手塚治虫の傑作漫画『アドルフに告ぐ』が舞台となって6月、KAAT神奈川芸術劇場に登場する。第二次世界大戦という大きな時代のうねりの中、アドルフ・ヒットラーの出生の秘密を巡って“アドルフ”の名を持つ二人の青年と、多くの男女の運命が翻弄される様を描いた衝撃作だ。実力派が揃った出演陣の中、「KAATの舞台に立つのが楽しみ」と語る横浜在住の鶴見辰吾さんに、舞台へかける思いを伺った。

自我は消して、その世界の中でしっかり存在したい。観ているお客様の中で生きていければいいなと思っています。

言い訳のきかない、良い作品との出会い

――2015年の今、この作品を上演することの意味をどのように考えていらっしゃいますか?

今の時代は、僕も含めて戦争のことを知らない人が多いですよね。戦争体験などを語り継いでくれる人も少なくなっている。そういう時こそ、我々は気をつけなければいけないんじゃないかと思うんです。平和の大切さを気づかせる、感じさせるものにすることが、この『アドルフに告ぐ』を今やる意味なのかもしれないですね。手塚さんは自身の体験から、この漫画を通して「戦争はしてはいけない」というテーマを掲げているように思います。戦後70年、平和を守り通してきたのですから、この先もずっと平和にやっていく努力を続けなければいけない。そのことをこの芝居から感じ取っていただけたらいいと思っています。

――念願でいらっしゃるKAATの舞台に立たれるお姿を楽しみにしています。

先日、劇場を見学させていただいたんですが、とても奥行きのある舞台で、ここなら『アドルフに告ぐ』という壮大な物語もできるな!と思いましたね。演劇ファンのみならず、これまで芝居を観たことがないという人に、ぜひ観ていただきたい。僕はつねに、自分の力を出し切れる、良い作品をやっていきたいと思っているんですね。台本も良くて、共演者も良くて、スタッフも良かったら、もう言い訳はできませんから。いい出会いの中で、自分の力を惜しまずに出せるような仕事をしていきたい。そんないい出会いを呼び込むことのできる人間になっていかなければとも思いますね。今回の『アドルフに告ぐ』はまさに出会えた作品。精一杯、頑張らせていただきます。

わたしの神奈川

保土ヶ谷に住んで18年になります。東京で生まれ育ったので隣の神奈川にはちょくちょく遊びに来てはいたんですが、いざ住んでみたら知らないことが多く、やっぱり故郷とは違うなと思っていました。でもある時から自転車に乗って神奈川のあちこちに行くようになったんですね。そのおかげで土地勘もだいぶついてきた。神奈川をほぼ一周する距離を走ったのが、これまでの最長ですね。横浜から横須賀に行って、三浦半島を一周して、逗子、江ノ島、平塚、小田原、湯河原、そのまま箱根をぐるっと回って横浜に戻りました。全部で260キロくらいかな?その体験で、完全に神奈川は私の“地元”になりました(笑)。

神奈川は自然が多く、また洗練されている街だと思います。伝統的なものと新しいものを取り入れるバランスが魅力の一つですね。3月に挑戦した横浜マラソンも、横浜に住んでいなかったら走ろうなんて思わなかったと思うんですよ。自転車仲間に「3時間半を切らなきゃダメ」と言われて「それは無理だよ～」と言ってたんですけど、自転車で鍛えていたおかげで達成できました。今はスイミングを始めましたよ。いつかアイアンマンレースに出て、「鉄人俳優」と呼ばれるようになるのが目標です(笑)。

取材・文:上野紀子／撮影:福里幸夫

つるみ しんご
1964年、東京都生まれ。1977年にドラマデビュー。ドラマ『3年B組金八先生』、映画『翔んだカップル』などで注目を浴び、以降、テレビ、映画、舞台と幅広く活躍。舞台出演は『ピーターパン』(2002年、鈴木裕美演出)、『間違いの喜劇』(2006年、蜷川幸雄演出)、『助太刀屋助六』(2012年、G2演出)、『兄帰る』(2013年、永井愛演出)など。最近の映画出演作に『バンクーバーの朝日』(2014年、石井裕也監督)。今年、『Zアイランド』(品川ヒロシ監督)が公開予定。自転車(ロードバイク)好きとしても有名で、2007年に“二代目 自転車名人”を受賞。著書に『気がつけば100km走ってた』『とことん自転車』がある。また今年3月開催の第一回横浜マラソンで初マラソンに挑戦。3時間12分58秒という驚異的なタイムで完走し、話題となった。

普遍的な命題を生きるペールは現代にこそふさわしい主人公

19世紀後半のノルウェーで、イプセンによって書かれた今作の主人公ペール・ギュントは放蕩息子の典型だ。家族や故郷、種々の決断や愛からさえ逃げ続けるその姿は、喜劇仕立てとはいえ人間が断ち切れない業や欲望、生と死のさだめなどが浮き彫りにされ、つい心を添わせたくなる。

「実は10年ほど前から、自分の中、頭のどこかでずっと“『ペール・ギュント』をやりたい”と思い続けていたんです。それが、どこからやって来るものなのかは分かりませんが、出会いから随分と時間を経たところで“アレをやりたい、今こそやらねば！”と思い立つことが僕の場合ままある。その心のザワつきを信じることが創作の出発点であり、原動力として非常に大きく作用するんです」

アーティスティック・スーパーバイザーとしてKAATでの二本目の創作、その作品選択について問うと、白井はそんなふうに話し始めた。「ザワつき」という言葉には、自身の創作を貫く「モティーフ」が含まれていると続ける。

「先日、僕の演出作をよく観てくださる方から“最近の白井さんは『死が織り込まれた作品』を選びますね”と言われハッとしました。確かに物語の中で人が死んだり、戦争など規模の大きな死や、主人公自身も死んでしまうような作品が続いている。でも考えてみると、それらの作品は死を描きながら逆説的に生の尊さ、かけがえのなさをしっかりと照射している。だから心惹かれたのだと改めて気づき、また、生と死という切り離せないモティーフを、僕は演劇を始めた当初から追い続けているのだという発見もありました。所属していた劇団『遊◉機械/全自動シアター』の代表作『僕の時間の深呼吸』などは良い例。少年が一瞬で老人になり、人生の終わり、退職の辞を読み上げるという場面がありましたが、あれはまさに生と死が背中合わせに見え隠れする瞬間だった。

翻って『ペール・ギュント』は、あらゆるものから逃げることで一度は生を謳歌する主人公ペールが、その最期、死の際に思わぬ形で幸福を発見するという、やはり核心に“生と死”が据えられたドラマ。この場合、時に無様なほどエネルギッシュな生を描くことで死を見つめるという逆の構図になっていますが、僕にとって創作上避けて通れない命題が確かにあるのです。そんなペールを鏡にし、“いかに生き、いかに死ぬか”という我々人間が生きている限り突きつけられ続ける普遍的な問題を、時に笑い、時に迷いながらお客様と考える時間になればいいな、と考えています」

そんな白井の抱くペール像は「普通に街中を歩いていそうな若者」とのこと。

「根拠も展望もなく“世界の王になる！”と村を飛び出し、好き勝手した挙句に折角のチャンスもふいにし、結局は振り出しに戻る。そんな若者が今、とても多いような気がします。僕自身も、若いころに初めてこの作品を読んだときは、逃げ続けるペールの気持ちに大いに共感しました。選択肢が無限にあるように思うのと同時に、目の前の現実や常識、社会制度に絡め取られることを激しく拒否する気持ちがありましたから。現代の若者はもっと冷めていて、現実から逃げるにしても虚無的な感覚が前に出ていたり、表面上はもの静かに振る舞いそうだと思う。今回ペールを演じてくれる内博貴さんは、そんな現代の青年のイメージと、原作の喜劇的な要素を表現できる両方の魅力を持った方。気さくで人懐っこい第一印象ですが、話すうちにナイーヴな素顔が垣間見えるようで、演出家として揺さぶりがいのある俳優だと思いました。彼とならきっと、21世紀のペールを生み出せる」

他にも『Lost Memory Theatre』でテキストを担当した谷賢一が翻訳と上演台本を、フリー・ジャズピアニストのスガダイローが音楽を手掛けるなど、若い才能の参戦もカギになりそうだ。

「世代を越えて対話ができる谷さんとは、もう一度深く創作を共にしたいと思っていました。スガさんの演奏には出会った瞬間から、そのエネルギーに圧倒されて。僕が今まで組んできた音楽家とは違う、尖ったものを内包した方ですが、だからこそ違う景色を見せていただけそうだと思っているんです。僕よりもペールに近い視点を持つお二人からも刺激を受けつつ、KAATでしかできない『ペール・ギュント』を探す旅を、僕自身も楽しみたいと思っています」

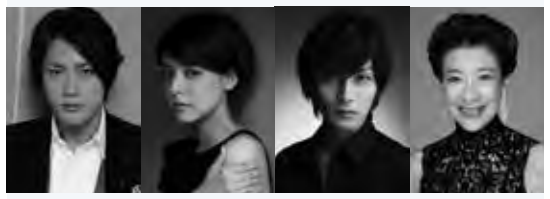
（取材・文　尾上そら）

『ペール・ギュント』
7月11日（土）～20日（月・祝）
KAAT神奈川芸術劇場　ホール

作：ヘンリック・イプセン
構成・演出：白井晃
翻訳・上演台本：谷賢一
音楽・演奏：スガダイロー
振付：小野寺修二
出演：内博貴、藤井美菜、加藤和樹、前田美波里
堀部圭亮、橋本淳、三上市朗、河内大和、小山萌子、
桑原裕子、辰巳智秋、瑛蓮、宮菜穂子、皆本麻帆、
荒木健太朗、青山郁代、益山寛司、
高木健、チョウヨンホ、間瀬奈都美、
大胡愛恵、薬丸翔、石森愛望

詳細は本誌ホールニュースまたは
公式WEB　http://www.pg2015.jp

【お問合せ・申込み】
チケットかながわ　☎0570-015-415
アフタートークつき公演あり（トーク出演者：白井晃、加藤和樹ほか）



［左から］内博貴、藤井美菜、加藤和樹、前田美波里

生きるとは何か？自分とは何ものなのか？永遠の問いをはらむ問題作

『ペール・ギュント』

演出：白井晃インタビュー（KAAT神奈川芸術劇場アーティスティック・スーパーバイザー）

演出家・白井晃がKAAT神奈川芸術劇場アーティスティック・スーパーバイザー（芸術参与）に就任し、1年が経った。
昨夏、演劇のみならず広くアート・シーンを沸かせた『Lost Memory Theatre』に続き、
再び劇場をアツくする新作の準備を進めているという。折々の世相を映すイプセンの代表作で今、白井は何を照射しようとしているのか。

WEB予約（24時間対応）http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/　チケットかながわ ☎0570-015-415（10時～18時）

チケットかながわ　@Ticket_Kanagawa　も更新中！

知ってた？かながわ

横浜・川崎エリア

神奈川県の伝統と風土に培われた工芸品や農林水産品などを「かながわの名産100選」からエリアごとにご紹介します。

「横浜スカーフ」

横浜の発展は、生糸貿易なしに語ることができません。安政6（1859）年の横浜開港直後から本格化した生糸輸出によって、横浜は、日本を代表する生糸貿易港として名を馳せました。横浜スカーフは、その流れのなかで生まれた歴史ある伝統工芸の100%シルクのスカーフです。

スカーフを製造する各工程の精度が高く、分業工程を取りまとめる産地問屋の多くが横浜に集中していること、また、木版技術を取り入れた高度な職人芸、手捺染で染められていることが、横浜スカーフの特徴です。

横浜市工業技術支援センター（金沢区）には約4万点のスカーフ柄のデータがあり、横浜の名所が描かれたスカーフも人気。神奈川県民ホールが開館40周年記念グッズとして製作したのも「横浜スカーフ」です。お客様をご案内するレセプショニストが身につけています。

（資料提供：横浜繊維振興会）

神奈川県民ホール40周年記念スカーフ
主催公演会場、2階の事務室でも販売しています
（税込み2,000円）

1 横浜市民ギャラリー

1964年に開設された「横浜で初めての公立ギャラリー」が、2014年10月に県立音楽堂にほど近い場所で、新しいスタートを切りました。開館の翌年から継続してきた「横浜市こどもの美術展」もいよいよ再開！

【会期：7月31日（金）～8月9日（日）】公募情報等詳細はチラシ、WEB（6月公開予定）をご覧ください。 お問合せ：☎045-315-2828

2 久良岐能舞台

能・狂言をはじめとする公演やワークショップが行なわれています。四季折々の自然に恵まれた庭園には、灯籠や水琴窟が楽しめる「つくばい」などが設けられています。6月7日（日）14:00　岩田英憲バンフルートコンサート　全席自由3,000円　8月23日（日）16:00 ダンスフェスティバル横浜2015参加事業「日本舞踊“ことば尽し”～浄瑠璃・朗読・島唄～」　全席自由3,500円　お問合せ：☎045-761-3854

3 ミューザ川崎シンフォニーホール

今年も恒例の「フェスタ サマーミューザKAWASAKI 2015」が開催されます！

7月25日（土）～8月9日（日）　首都圏で活躍する10のオーケストラが川崎に集結。また、吹奏楽やジャズなど多彩なプログラムが予定されています。7月21日（火）～8月3日（月）には「こどもフェスタ」も開催されます。

お問合せ：☎044-520-0200

©青柳聡

4 昭和音楽大学テアトロ・ジーリオ・ショウワ

小田急線・新百合ヶ丘駅南口から徒歩4分。オペラ、バレエ、ミュージカルなど多様なパフォーミング・アーツが上演できる劇場です。

6月13日（土）14:00 テアトロ・ジーリオ・ショウワ・オーケストラ「懐かしの名曲と映画音楽」風と共に去りぬ、ゴッドファーザー　他

S席3,500円～　お問合せ：☎044-953-9899

その他の県内文化情報

各公演・展覧会情報は2015年4月20日現在のものであり、内容は変更される場合があります。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

定期演奏会みなとみらいシリーズ

横浜みなとみらいホール

フランス音楽の陰と陽――ラヴェル、サン＝サーンス
6月13日（土）14:00　指揮：パスカル・ヴェロ
ピアノ：小菅優　オルガン：石丸由佳
ラヴェル／ピアノ協奏曲
サン＝サーンス／交響曲第3番「オルガン付」　ほか

パスカル・ヴェロ

アメリカが生んだ音楽遺産――「新世界」とアイヴズ
7月10日（金）19:00　指揮：川瀬賢太郎
ドヴォルザーク／交響曲第9番「新世界より」　アイヴズ／交響曲第2番

各公演 S6,000円　A4,500円　B3,000円

☎045-226-5107（平日10:00～18:00）
http://www.kanaphil.or.jp/

県立神奈川近代文学館

生誕130年没後50年『銀の匙』の作家　中勘助展

「銀の匙」で知られる中勘助（1885～1965）。度重なる病や肉親の死に向き合いながら紡いできた抒情溢れる繊細な作品は、現在も多くの人々に読み継がれています。原稿や遺愛品などのほか「『銀の匙』授業」で知られる灘校教師・橋本武との交流なども紹介します。

5月30日（土）～7月20日（月・祝）
9:30～17:00
月曜休館（7月20日は開館）
一般400円
65歳以上／20歳未満及び学生200円
高校生100円　中学生以下無料
☎045-622-6666
http://www.kanabun.or.jp/

神奈川県県民局くらし県民部文化課

かながわ伝統芸能ワークショップ「日本舞踊に学ぶ‘和’の作法」

小中学生を対象に日本舞踊を通じて、浴衣の着付、扇の扱い方など和の作法やたしなみを楽しく学びながら、伝統的生活文化の奥深さや所作を体験するワークショップ。

① 7月23日（木）～25日（土）　茅ヶ崎市総合体育館
② 7月30日（木）～8月1日（土）　横須賀市文化会館
③ 8月6日（木）～8日（土）　相模原市民会館
④ 8月14日（金）～16日（日）　県立青少年センター

参加費　3,000円（足袋代含む）

神奈川県文化課文化事業グループ
☎045-210-3808

公益財団法人神奈川芸術文化財団賛助会員募集のご案内　公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を設立し、広くみなさまのご寄附・お力添えをいただいております。

賛助会員　**法人賛助会員**　株式会社アクトエンジニアリング / 株式会社浅岡装飾 / アサヒビール株式会社 / アズビル株式会社 / 学校法人岩崎学園 / 株式会社ヴォートル / 株式会社エス・シー・アライアンス / 株式会社NHKアート株式会社オーチュー / 株式会社勝烈庵 / 公益財団法人神奈川県結核予防会 / 神奈川県信用保証協会 / 株式会社神奈川孔文社 / 株式会社神奈川保健事業社 / 神谷コーポレーション株式会社 / 川本工業株式会社 / かをり商事株式会社 / 株式会社共栄社株式会社キョウエイ装備 / 株式会社KSP / 株式会社合同通信 / コトブキシーティング株式会社 / 株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局 / 株式会社清光社 / 株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ / 月島機械株式会社 / 株式会社テレビ神奈川東工株式会社 / 東神工芸株式会社 / ナイス株式会社 / 株式会社日建設計 / 日産自動車株式会社 / 日成工事株式会社 / 日生商工株式会社 / 日総プレイン株式会社 / 株式会社野毛印刷社 / パナソニック ESエンジニアリング株式会社 / 株式会社日立システムズ平安堂薬局 / 株式会社ホテル、ニューグランド / 一般社団法人本牧関連産業振興協会 / 丸茂電機株式会社 / 三沢電機株式会社 / 森平舞台機構株式会社 / ヤマハサウンドシステム株式会社 / 株式会社有隣堂 / 株式会社豊商会 / 株式会社ユニコーン株式会社横浜アーチスト / 横浜エレベータ株式会社 / 横浜新都市センター株式会社 / 横浜信用金庫 / 横浜ビルシステム株式会社 / 株式会社ワイイーシーソリューションズ
永年個人賛助会員　江田眞子 / 川村恒明　**個人賛助会員**　大島正博 / 岡田博子 / 金子祐子 / 黒瀬博靖 / 本田正男　**（匿名：1社、1名）**
協賛・協力　**能舞台協賛**　ナイス株式会社　**協力**　神奈川綜合設備株式会社 / 神奈川トヨタ自動車株式会社 / 崎陽軒 / 株式会社東芝 神奈川支店 / 株式会社野毛印刷社 / 野村證券株式会社横浜支店 / 株式会社富士住建 / 三菱地所株式会社
（敬称略　2015年4月22日現在）　ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ：広報営業課　☎045-633-3760

もっと、アートニュース近くに。

夏休みは親子で劇場・音楽ホールへ、自信をもっておすすめする企画をご紹介

夏休みに思い出に残る劇場・ホール体験を子どもにさせたい―― そんな思いに応える充実のラインナップが揃った。芝居、ミュージカル、体験型オーケストラ、オルガン講座、何度でも劇場・ホールに通っていただきたい。

KAAT キッズ・プログラム2015

URL http://www.kaat.jp/

「わかったさんのクッキー」「ピノキオ～または白雪姫の悲劇～」「秘密のショートケーキ」3演目全てをご覧になった方にオリジナルグッズをプレゼントするスタンプラリーも開催！

おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」

7月23日(木)～8月2日(日) KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ

人気児童書が「おいしいおかしいおしばい」に

演劇カンパニー「チェルフィッチュ」主宰の岡田利規が、この夏新たな挑戦をする。子どものためにお芝居を作るのだ。彼が選んだのは絶大な人気を誇る児童書『わかったさんのクッキー』。岡田は「演劇は魔法をかけられるのだ」ということを信じて「今の自分には魔法をかけられるはず」と劇場からの子どものための芝居作りの依頼を承諾したという。舞台美術には現代美術作家の金氏徹平、劇中歌はシンガーソングライターの前野健太が参加。出演は、椎橋綾那、古屋隆太、山崎ルキノ、笠木泉、佐々木幸子の5名。岡田の新作ということで、会場は子どもではなく大人でいっぱいになってしまうかもしれない。

親子のためのファミリー・ミュージカル ピノキオ～または白雪姫の悲劇～

8月8日(土)～16日(日) KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ

ファンタジックな亜門版ピノキオ

KAAT神奈川芸術劇場が、一昨年制作した宮本亜門演出・脚色のファミリー・ミュージカルを再び上演する。タイトルにあるように白雪姫や魔王も登場し、ピノキオのストーリーからはみ出しほかのおとぎ話にまで広がる、柔軟で自由なピノキオの成長物語を家族連れで楽しめる。音楽は宮本亜門演出の『アイ・ガット・マーマン』の音楽監督でもある深沢桂子。ミュージカルのツボをおさえた楽しい音楽が満載だ。上演されるのは真ん中が空いているドーナツのような円形劇場で、その真ん中にも客席があり、出演者は客席の中で観客に語りかける舞台構成となっている。子どもはあっという間に物語と音楽の魅力に引きつけられ、ピノキオの冒険を共に楽しむことだろう。

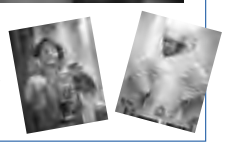
新着情報！

コンフェティ劇団「秘密のショートケーキ」

8月13日(木)～17日(月)
KAAT神奈川芸術劇場 ホール ステージオンステージ

舞台の上にしつらえられた直径10メートルのケーキの中で、いくつもの部屋を探検。たどりついた劇場で小さなティーパーティーやパフォーマンスを楽しむ、子どもたちの冒険心と想像力をかきたてる企画！

企画・演出・舞台装置：クラウディ・ガニョン
音楽・音響：フレデリック・ルブラスール



マエストロ聖響の夏休みオーケストラ！

http://www.kanagawa-ongakudo.com/

8月15日(土) 神奈川県立音楽堂

8月12日(水)～15日(土)「オーケストラがもっと身近になる！4日間の関連企画(事前申込制・無料)」

紅葉坂を上がればオーケストラが待っている！

神奈川県立音楽堂では夏休みの4日間、劇場スタッフと神奈川フィルハーモニー管弦楽団が子どものために、オーケストラを見て、聴いて、触れられる機会を用意する。集まる子どもたちに腕をふるうシェフは、マエストロ金聖響。バックステージ・ツアー&ミニ・コンサート、公開リハーサル、公開ゲネプロ、指揮者体験！など内容も盛りだくさんだ。金聖響と対話できるリハーサルでは、ひとりの芸術家として語りかけるマエストロの言葉に子どもたちの感性が刺激される。ジュニア・スタッフ養成講座はかなり本格的。本番当日には、小さなスタッフが忙しく働いている。いずれのプログラムも事前申し込みが必要なのでスケジュールをチェックしておきたい。

オルガン　夏休み子どもスペシャル

http://www.kanagawa-kenminhall.com/

8月1日(土) 神奈川県民ホール 小ホール

実はかなり楽しい神奈川県民ホールのオルガン講座

夏休みの子ども企画としては地味と思われるかもしれないが、オルガン講座は満足度の高い人気の講座なのだ。そもそもオルガンという楽器は非常にユニークで、外見からだけでは想像できない構造を持ち、バラエティに富む音を出すことができる。今回はフランスで研鑽を積み、所沢市民文化センターミューズのオルガニストを務めている若手の梅干野(ほやの)安未(あみ)を迎え、レクチャーと演奏を楽しむ。オルガンと一緒に演奏したり触ったり、パイプを吹く体験もできる。ロビーでは模型で仕組みを知ることもできるので、オルガンを自在に操る梅干野の話と演奏に引き込まれ、子どもたちにもオルガンが身近になり、いっそう興味が持てるようになるに違いない。

(文　結城美穂子)

【申込み・お問合せ：チケットかながわ】
☎0570-015-415
WEB予約 http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/
チケット・年齢制限などの詳細は本誌ホールニュース・各館WEB参照
●各演目に有料託児サービスあり。(要事前電話予約)
●やむを得ない事情により内容が変更となることがあります。

創造を支える仕事人⑦

KAAT神奈川芸術劇場　施設運営第二課
施設管理担当
井上 正春

お客様に楽しい時を過ごしていただくために、劇場の建物は安全で快適な環境を保つ必要があります。KAATの施設管理担当、井上正春は建物の専門家として30数年のキャリアをもつベテラン。“我が子”の成熟を愛情もってみつめ、念入りにケアしています。

施設管理は、建物が不具合なくきちんと機能するよう管理・運営するのが仕事です。実際には、建物の運転、清掃、警備などを委託している業者さんとともに、ハードウェアの調整・管理を行っています。また公演の制作担当などソフトウェアの部分との間をつなぐ役割も大切な仕事です。

KAAT勤務になったのは昨年の4月からです。それまでは県庁で、主に電気関連を専門に、建物を造る仕事に携わっていました。そこでは、建物を生み育て、成人させて世の中に送り出すまでが仕事でしたが、いまは、成人した建物がきちんと世の中で働いていけるよう見守り、一緒に働くことのできる喜びを感じています。

KAATの建物が刺激的なのは「劇場」であること。劇場には、公演を観る人、出演する人、貸し館として利用する人など大勢のお客様がやってこられます。そのすべての方に最良の状態で使っていただけるよう、最善を尽くすことを日々心がけています。

今後の課題は「長寿命化計画」で、まさにいま念入りに修繕計画を練っているところです。せっかくの新しい建物ですから、いつまでも美しくいい状態で機能していけるよう、早めに手当てができればと思います。快適さ、利便性など建物への要求は増えていく傾向にありますので、時代の要求に応えられるレベルに維持していく必要があるのです。人も建物も、年を重ねると差が出ますよね(笑)。心身ともに健康を保つために多大な努力が必要なのも同じです。まだ若いKAATですが、何年か経って「風格が出たな」と言われるよう、立派に年を重ねていってほしいと願っています。

もっと、レビューボイス 近くに。

開館60周年記念の音楽堂で、ヴィヴァルディの幻のオペラが、ビオンディとエウローパ・ガランテ、彌勒忠史らによって21世紀に蘇りました。王国乗っ取りの謀略と敵討ちと愛の人間ドラマ、そして生命力溢れる演奏、欧州の一流歌手たちによるアリアにも魅せられた、お客様の感動の余韻をお届けします。

神奈川県立音楽堂 開館60周年記念特別企画！
音楽堂バロック・オペラ
ヴィヴァルディ「メッセニアの神託」全3幕

音楽監督・ヴァイオリン：ファビオ・ビオンディ　演出：彌勒忠史
出演：マグヌス・スタヴラン（テノール）、マリアンヌ・キーランド、ヴィヴィカ・ジュノー、マリーナ・デ・リソ、ユリア・レージネヴァ、フランツィスカ・ゴッドヴァルト、マルティナ・ベッリ（以上メゾソプラノ）
演奏：エウローパ・ガランテ
2月28日（土）～ 3月1日（日）　神奈川県立音楽堂

撮影：青柳聡

バロック音楽でのオペラを初めて観ましたが、とてもインパクトがありました。**良質な音楽とレベルの高い演奏**、斬新な演出にとても感動しました。（40代女性）

プレトークから**わくわくさせられ**、幕が開いたら装置や衣裳の**斬新さに驚かされました**。能をイメージした演出は木のホール音楽堂にピッタリでしたし、演奏、歌唱も素晴らしかったです。（60代女性）

Vivaldi最晩年の重要作品に接することができ、感激しました。彌勒さんの舞台と衣装もとてもよかったです。（70代男性）

今回のオペラは、古楽器のイメージを大きく変えてくれました。**豊かで自由自在、軽やかでもあります**。また歌手陣の素晴らしいこと、特に大臣役のソロ、女王役のソロは、魔笛の夜の女王を2つ別バージョンで聴くような充実感がありました。素晴らしいオペラ、感謝です。

もっと、Information アートに。

シュトゥットガルト室内合唱団
純粋な響きと深い精神性。世界最高峰の合唱団。
オール「ア・カペラ」プログラムを木のホールで聴く！

5月30日（土）
神奈川県立音楽堂
全席指定　一般5,000円
指揮：フリーダー・ベルニウス
合唱：シュトゥットガルト室内合唱団

アンサンブル・ウィーン＝ベルリン
世界最高峰の木管アンサンブル！ウィーン・フィルとベルリン・フィルの首席奏者で結成！新メンバーを迎え生まれ変わった、新たな伝説の始まり！

7月5日（日）
神奈川県立音楽堂
全席指定
一般5,000円
高校生以下2,000円
カール＝ハインツ・シュッツ（フルート）、
ジョナサン・ケリー（オーボエ）、
アンドレアス・オッテンザマー（クラリネット）、
リヒャルト・ガラー（ファゴット）、
シュテファン・ドール（ホルン）

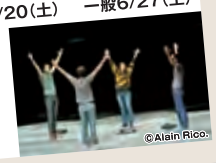
コンフェティ劇団「秘密のショートケーキ」
巨大なケーキのワンダーランド！

8月13日（木）～17日（月）
KAAT神奈川芸術劇場・ホール ステージオンステージ
おとな2,500円　こども（4歳～中学生以下）1,500円
おやこチケット3,500円
企画・演出・舞台装置：
クラウディ・ガニョン
音楽・音響：
フレデリック・ルブラスール

KAATダンスシリーズ2015
アロリー・ゴエルジェ＆アントワンヌ・ドゥフォール
Halory Goerger & Antoine Defoort
『GERMINAL』ジェルミナル

9月11日（金）～13日（日）
KAAT神奈川芸術劇場・大スタジオ
一般前売4,000円　学生2,500円
発売日：KAme6/20（土）　一般6/27（土）

DANCE DANCE DANCE YOKOHAMA



©Alain Rico

第8回音楽堂建築見学会
前川國男の名建築と出逢う！建築家、専門家らのレクチャーや対談、音響を体感できるミニ・コンサートも！

9月18日（金）
神奈川県立音楽堂
全席指定　一般1,500円
講師：松隈洋（建築史家・京都工芸繊維大学教授）　ほか
7月発売予定

第51回神奈川県美術展 作品募集!!

部門　平面立体／工芸／書／写真
応募作品搬入 7月18日（土）・19日（日）
午前10時～午後4時
神奈川県民ホールギャラリー
募集要項はホームページからダウンロード
WEBサイト 第51回 神奈川県美術展 検索
URL http://www.kanakengallery.com
※中高生特別企画展も同時開催

第50回 平面立体部門 大賞受賞作品
≪あやつり糸の旅≫ 岡村このみ

チケットのお求めは **チケットかながわ**

WEB予約（24時間受付）
http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/

☎0570-015-415（10:00～18:00）
窓口（県民ホール 10:00～18:00 / KAAT 10:00～18:00 / 音楽堂 13:00～17:00月休）

チケットかながわ　@Ticket_Kanagawa　も更新中！

編集後記

- 新コラム「知ってた？かながわ」は「横浜スカーフ」。世界一と言われる技術とか、輸出が世界シェア80%を誇ったとか、地元民なのに「知らなかった」です。今後も味わい深い地元ネタに乞うご期待。（井）
- 巻頭インタビューに登場いただいた鶴見辰吾さん、「いい出会いを呼び込むことのできる人間に」という言葉が素敵でした。KAATとの出会いでなにを見せてくださるのか、とても楽しみです。（あ）
- 先日「KAAT theツアー」に参加してきたのですが、楽しんでいる子どもたちを見ていると、とても和みました。KAATは夏休みに子ども向け企画が多数ありますので、是非通ってみてください。（さ）

神奈川県立県民ホール（本館、神奈川芸術劇場）及び神奈川県立音楽堂の主催事業には宝くじの収益金の一部が使われています。

ART MAP

ホール・劇場周辺のアートスペース

宮川香山 眞葛ミュージアム

☎045-534-6853　http://kozan-makuzu.com/

明治時代、横浜から海を渡り、世界を魅了した"幻のやきもの"眞葛焼。
眞葛焼に魅せられた館長・山本博士さんのコレクションから、選りすぐりの名品が紹介されています。

入館料：大人500円、中・高校生200円、
　　小学生以下無料
開館時間：10:00～16:00
開館日：土曜日、日曜日のみ開館（年末年始など休館あり）

初代 宮川香山作「青華釉菖蒲面花瓶」

そごう美術館

☎045-465-5515
http://www.sogo-gogo.com/museum/

「没後10年 ロバート・ハインデル展
―光と闇の中の踊り子たち―」
Dance Dance Dance@YOKOHAMA2015パートナー事業

7月4日（土）～26日（日）

パフォーマンスアートを題材とし、"現代のドガ"と評されるハインデル。油彩・素描約120点で画家の全貌をご紹介します。

入館料：大人1,000円、
　　大学・高校生800円、
　　中学生以下無料
開館時間：10:00～20:00
　　（入館は19:30まで）
　　会期中無休

《バ ド ドゥ ウィズ フロアーマークス》1984年 ©Robert Heindel

KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ

☎0570-015-415
http://www.kaat.jp/

Noism1 近代童話劇シリーズvol.1「箱入り娘」
6月22日（月）～28日（日）

演出振付：金森穣
音楽：B.バルトーク《かかし王子》
衣裳：堂本教子　映像：遠藤龍
出演：Noism1

Noism1最新作はスタジオ公演！息遣いも伝わるほどの密な空間で、新シリーズの幕が上がる―バルトークの音楽にのせて描くオリジナルの物語舞踊。

全席自由（入場整理番号付）　一般5,500円
U24チケット2,750円

（横浜市在住カメラマン）
森日出夫さんの写真でめぐる

横浜情景

馬車道十番館の入口にある「牛馬飲水槽」です。大正時代、横浜の陸上交通の主力は牛馬でした。横浜荷馬車協会には3千頭もの牛馬がいて、夏には洒落た麦わら帽子をつけ、気取った足取りで荷物の運送をしたと伝えられています。飲水槽は牛馬の途中休憩所で、中区の生糸検査所や西区の高島町駅前などに設置されていました。この飲水槽は大正6（1917）年に磯子区の八幡橋際に作られ、昭和42（1967）年に完成したこのレストラン前に移されました。そばにあるレトロな電話ボックスと相まって、古き良き時代の雰囲気を今に伝えています。

神奈川県発、文化発信ポータルサイト
マグカル ドット ネット
MAGCUL.NET

神奈川芸術プレスはここにあります。
神奈川県内の主な県施設の情報コーナー、ホール・劇場・文化施設、公立図書館、美術館・博物館、一部の有隣堂・横浜銀行店舗などに配架しております。
※発行日から1週間程度で配架されます。神奈川県民ホール、KAAT神奈川芸術劇場、県立音楽堂の3施設は発行日に配架します。
PRESS IS HERE

KAme かながわメンバーズ
KANAGAWA members
登録無料！
メルマガ定期配信

県内のアート情報はここで探そう！
http://www.kanagawa-at.info/
「かな@」で県内のアート情報を検索できます。

あなたとおなじ明日を見つめる
野村のコンサルティング

野村證券 横浜支店　〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-5-10　TEL 045-311-1671
▌窓口営業時間 平日 午前9:00～午後3:30 ▌電話受付時間 平日 午前8:40～午後5:10

Vol.124（通巻128号）2015年5月15日発行（奇数月15日発行）TEL045-633-3760 FAX045-663-3714 発行：神奈川県民ホール【指定管理者：（公財）神奈川芸術文化財団】 企画・制作：（公財）神奈川芸術文化財団／（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ 【禁無断転載・複写】無料配布